

社会学科3つのポリシー（2024年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学科は、現代社会の課題を発見・理解・解決する能力の養成、コミュニケーション能力の育成をとおして、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」となり、かつ個性的、自律的な人間となることができるよう、以下の3点を身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識・技能

社会学の知識に基づく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を修得し、実社会における現象や問題・課題について、社会的に理解・分析し、自身の考えを表現する技能を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

修得した社会的知識と技能を基礎に、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組む、その成果を表現するために必要な社会的思考力・判断力・コミュニケーション能力を身につけている。

3. 協創力

激しく変動する現代社会において、自ら身につけた社会的知識を多様な科学や学問に照らしつつ、主体性を持って多様な人々と協力し、学び合い、新たな価値を創造する意欲と実行力を身につけている。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

急激な社会変動を迎えている現代社会で、自ら問題や課題を見出し、その解決に向けて人々の文化や多様性を理解し、実証的方法に基づいて論理的に思考し、異なる価値観や文化・属性を持つ人々との共存のための社会を構想できる能力を備えた人材を育成できるよう、以下の3点を教育課程の編成方針として明示します。

1. 基礎から発展へ

社会学の方法・理論の成り立ちと現代的展開に関する基礎的知識から応用的領域までを網羅し、体系的に修得できる科目を社会学主専攻科目に配置します。

2. 視野の拡大

広い視野を有する人間性を涵養するために、学問領域を横断しながら「人間とは何か」を探究する人文学領域の科目を中心として構成された人文学部総合科目を配置します。また、

社会学の領域では幅広く多様な視角・方法・理論を修得する科目を社会学主専攻科目に配置します。

3. 経験の拡充

実社会で主体性を持って多様な人々と協力し新たな価値を創造するために、主専攻科目に人文学部総合科目と社会学専門科目という二つの科目群を設けます。人文学部総合科目には、「ボランティア論」「社会文化体験演習」「海外体験演習」等を配置します。また、社会学専門科目には、社会構想に関する科目群と特殊演習科目群を設置し、社会において実践的な力を涵養するために「社会安全政策論」「社会構想と公共政策」「マスメディア論Ⅰ・Ⅱ」「応用社会学特殊演習」「ジャーナリズム論特殊演習」等を配置します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

社会学科は、高等学校卒業程度の学力、すなわち入学後に学士課程教育を受けるに必要な学力を有し、次のような人を広く国内外から受け入れます。具体的には、(1)社会における諸現象・諸問題に関心があり、自ら調査し、考え、他者とコミュニケーションすることによって学ぼうとする人、(2)豊かな人間性を培うために、広い視野を有し、多角的な社会学的視点から実社会を理解しようと努める人、(3)社会学の視角・方法・理論を修得しようと努める人、(4)将来に関して目標を持ち、自己の人生を切り開く能力を身につけようとする人です。

社会学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

高等学校における英語・国語・社会科・数学などの教科に関する知識・技能を習得している人。社会の構造、社会に生きる人々の意識や価値観を理解し、社会におけるさまざまな現象や問題・課題について理解・分析し、自身の考えを表現し、他者と議論する際に基礎となる能力を有する人。

(2)思考力・判断力・表現力

自ら社会的な課題や問題を発見し、その解決に取り組み、成果を社会において表現するのに必要な社会学的思考力・判断力・表現力を修得することに意欲がある人。

(3)主体性等

激しく変化していく現代社会のなかで多様な価値観を持つ他者に対して理解しようとする態度を備え、主体性を持って多様な人々と学びあい、相互理解をはかっていこうとする意

欲がある人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、英語と国語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り基礎学力の向上に努めてください。基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、様々な本を読むこともおすすめします。

2. 入学試験制度と評価

社会学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)総合型選抜

社会学科への入学を強く希望し、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有している学生を、主として個別学力検査に基づいて、面接、志望理由書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して選抜します。さらに、面接に基づいて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置

き、調査書に基づく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(4)学校推薦型選抜（公募）

社会学科での学修に意欲を持つ者で、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有していると高等学校長などから推薦された者から、主として個別学力検査と面接に基づいて、志望理由書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して学生を選抜します。個別学力検査では、英語を含めた資料読解力・理解力に基づいた資料小論文方式を実施します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・表現力に重点を置き、調査書に基づく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（指定校）

社会学科への入学を強く希望し、社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有していると高等学校長などから推薦された者から、主として面接に基づいて、志望理由書、調査書の内容、高等学校などでの活動・経験などを加味して、学生を選抜します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書に基づいて社会学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書に基づいて社会学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認したうえで、面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)社会人選抜

社会学を学ぶことの意義について適切に理解し、かつ入学後に学士課程教育を受けるに必要な基礎学力を有している学生を、個別学力検査に基づいて、面接、志望理由書、調査書

の内容、社会人としての活動・経験などを加味して選抜します。個別学力検査では、英語を含めた資料読解力・理解力に基づいた資料小論文方式を実施します。

(8) 帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(9) 外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価したうえで、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(10) 編入学試験・学士入学試験

個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性等を評価したうえで、個別学力検査結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 社会学科の教育を通じて養う能力

社会学科の教育を通じて養う能力は、以下のような能力です。

(1) 社会学の知識に基づく視角・方法・理論の成り立ちと現代的展開を自ら学び考えることによって、実社会における現象や問題・課題について、社会的に理解・分析し、自身の考えを表現できる能力。

(2) 修得した社会的知識に基づく視角・方法・理論を持って、自ら社会的な課題を発見し、社会問題の解決に取り組み、その成果を社会的に表現するために必要な社会的思考力・判断力・コミュニケーション能力。

(3) 激しく変動していく現代社会において、自ら身につけた社会的知識を多様な科学や学問に照らしつつ、主体性を持って多様な人々と学びあう能力。

(4) 国際化を進める社会で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、自らの課題とテーマに関して主体性を持って学問的に追求する能力。

【社会学科】

(別表) 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般選抜	一般選抜 (前期日程)	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ) ・英語資格・検定 (共通テストプラス方式のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ)		
	一般選抜 (後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト 利用選抜 (前期日程、後期 日程)	◎	・共通テストの成績 ・英語資格・検定 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
総合型 選抜	総合型選抜	○	・課題小論文 ・調査書	◎	・課題小論文 ・面接 ・志望理由書	◎	・面接 ・志望理由書
学校 推薦型 選抜	学校推薦型 選抜(公募)	◎	・小論文 ・推薦書 ・調査書	○	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	◎	・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型 選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型 選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

教育学科 3つのポリシー（2024 年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育学科は、現代社会の課題を発見・理解・解決する能力、コミュニケーション能力、及び情報リテラシーの育成を通して、学生一人ひとりが「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」となり、かつ個性的、自律的な人間となることができるように、以下の3点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識・技能

教育学及び教育実践に関する知識を習得し、教育的視野を持って現代社会にみられる現象を分析・整理・表現できる技能を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

習得した知識・技能を基礎に、自ら課題を発見し、課題解決に向かって、思考・判断し、思考・判断したことを適切に表現する力を身につけている。

3. 協創力

自らが生きる社会に貢献するために、家庭・学校・社会において多様な人材と連携・協働することを通して、教育的視野から新しい価値を創造する意欲と実行力を身につけている。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学科は誕生から成熟と死に至る時間的連なりと家庭・学校・社会に関わる空間的広がりにおいて考察する「人間の発達と形成」に関する教育学的リテラシーの育成を図ります。教育学科は学科のディプロマ・ポリシーの達成のために以下の3点をカリキュラム・ポリシーとして明示します。

1. 基礎から発展へ

学士課程教育に必要な教育学及び教育実践に関する基礎的な知識・技能を習得できるように、基礎的内容から発展的内容へと主専攻科目を体系的に配置します。また、各コースの専門領域に即して社会で活用できる資質・能力を育成する教育プログラムを設けます。

2. 視野の拡大

人間、文化、社会の多様性と普遍性を理解できるように、学際的・総合的視点から主専攻科目を開設します。これらを踏まえて、学士課程における学習成果の集大成として卒業研究を必修とします。

3. 経験の拡充

現代社会の課題について主体性を持って解決していこうとする人材を育成するために主

専攻科目に「教育に関する基礎的な知識を習得する科目」と「教育に関する実践的な知識を習得する科目」を配置します。また、これからの教育の変化に対応し、幅広い視野を身につけることができるように、教育実習や学校インターンシップなどの多様な教育実践の機会を提供します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

教育学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。教育学とは、ある社会・文化における人間の生成・発達と学習の過程に意図的に働きかける教育という営みを対象とする学問です。そのため、教育学を学ぶ学生には、多様な視点やアプローチによって教育という営みについて考察し、教育のありうる姿を構想・具体化する力を身につけることが必要です。

教育学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1) 知識・技能

教育学の専門分野を学ぶために必要な高等学校までの基礎的・基本的な知識・技能を習得し、観察・実験をし、その結果をもとにレポートを作成したり、文章や資料を読んだうえで、知識や経験に照らして自分の考えをまとめたりするなど、それぞれの教科の知識・技能を活用できる力を身につけている人。

(2) 思考力・判断力・表現力

教育学的な視点で自ら問題を発見し、課題解決のため教科等を横断した探究活動ができる力を身につけている人。

情報を多面的・多角的に精査し構造化することを通して、自分の考えを形成し、様々な方法で表現できる力を身につけている人。

(3) 主体性等

学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる態度が身につけている人。

多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力が身につけている人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。特に、国語については、高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り基礎学力の向上に努めてください。基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。自分の興味関心を広げるために、様々な本を読

むこともおすすめします。

また、自ら問題を発見し、様々な情報を活用しながら、問題を解決し、それを発信できる言語能力を高めてきてください。

2.入学試験制度と評価

教育学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書に基づいて多面的・総合的に評価します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書に基づいて多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)総合型選抜

志望理由書に基づいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。そのうえで、筆記試験に基づいて読解、要約、分析、論述の能力を多面的・総合的に評価します。また、集団討論に基づいて思考力・判断力・表現力、主体性、協働性を多面的・総合的に評価します。さらに、面接に基づいて主体性、入学後の学びに対する計画性、言語運用能力を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書に基づく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(4)学校推薦型選抜（公募）

志望理由書に基づいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。そのうえで、資料小論文に基づいて読解、要約、分析、論述の能力を多面的・総合的に評価します。さらに、面接に基づいて主体性、入学後の学びに対する計画性、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（公募）では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現

力に重点を置き、調査書に基づく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(5)学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書に基づいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。そのうえで、面接に基づいて主体性、入学後の学びに対する計画性、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（附属校）

【専願】

志望理由書に基づいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。そのうえで、面接に基づいて主体性、入学後の学びに対する計画性、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・専願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

【併願】

志望理由書に基づいて教育学科で学修することの意義を理解し、学習意欲があることを確認します。そのうえで、面接に基づいて主体性、入学後の学びに対する計画性、言語運用能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校・併願）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)外国人留学生選抜

日本留学試験の成績に基づいて日本語運用能力を評価します。そのうえで、面接に基づいて知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価します。

外国人留学生選抜では、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(8)社会人選抜

志望理由書に基づいて教育学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認します。そのうえで、資料小論文に基づいて読解、要約、分析、論述の学力を多面的・総合的に評価します。さらに、面接に基づいて主体性、入学後の学びに対する計画性、言語運用能力を評価します。

社会人選抜では、資料小論文の結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(9)編入学試験・学士入学試験

英語に関する個別学力検査と小論文に基づいて、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。そのうえで、面接に基づいて主体性、入学後の学びに対する計画性、言語運用能力を評価します。

編入学試験・学士入学試験では、個別学力検査と小論文の結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3.教育学科の教育を通じて養う能力

教育学の学修方法は、「教える－学ぶ」に関連する理論と実践について、言語、身体、感覚の全てを視野に含みつつ、考察を行うことを基盤としています。その学修方法を通して、多様な視点やアプローチによって教育という営みについて考察し、教育のありうる姿を構想・具体化する能力を身につけます。

【教育学科】

(別表) 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法 (◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般 選抜	一般選抜 (前期日程)	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ) ・英語資格・検定 (共通テストプラス方式のみ) ・調査書 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ) 		
	一般選抜 (後期日程)	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学力検査 ・調査書 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学力検査 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書
	共通テスト 利用選抜 (前期日程、後期 日程)	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの成績 ・英語資格・検定 ・調査書 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの成績 		
総合型 選抜	総合型選抜	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・課題図書に関する 筆記試験 ・集団討論 ・調査書 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・課題図書に関する 筆記試験 ・集団討論 ・面接 ・志望理由書 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・集団討論 ・面接 ・志望理由書
学校 推薦型 選抜	学校推薦型 選抜(公募)	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面接 ・推薦書 ・志望理由書
	学校推薦型 選抜(指定校)	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面接 ・推薦書 ・調査書 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面接 ・推薦書 ・志望理由書 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型 選抜(附属校)	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面接 ・推薦書 ・調査書 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面接 ・推薦書 ・志望理由書 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書

英語英文学科 3つのポリシー（2024年度生用）

I. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英語英文学科は、学生一人ひとりが「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の3点を学士課程教育において身につけるべき学士力として明示します。

1. 知識・技能

地球的視野を持つために、言語としての英語、及び英語圏の文化の諸相に関する幅広い知識と各専門分野の専門的知識を修得し、その知識を応用、実践するための技能を身につけている。

2. 思考力・判断力・表現力

持続的な社会の創出に貢献するために、修得した知識と技能を基礎に、自ら課題を発見し、課題解決の方向性を思考・判断することができる。また、自らの考えや提案を他者に伝え、他者の考えを受容し、円滑なコミュニケーションを行うための表現力を身につけている。

3. 協創力

グローバル化が進む社会において、自らが生きる地域社会に貢献するために、主体性を持って異なる文化や価値観を持つ多様な人々と協力し価値を創造する意欲と実行力を身につけている。

II. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

英語英文学科は、学生一人ひとりが円滑に大学での学修を開始し、学士課程をとおして深い学識を身につけ、「地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材」となることができるよう、以下の3点を教育課程の編成方針として明示します。学修成果については、シラバスに明記した成績評価基準による厳格な成績評価とともに、広島修道大学アセスメントプランに基づいた教育課程全体の評価の二つで評価します。

1. 基礎から発展へ

基礎的な英語運用能力を修得し、専門性の高い学修に結び付けるため、初年次の英語力錬成科目から高学年次の発展的な科目へ、科目を段階的に配置します。

2. 視野の拡大

英語圏の文学・文化と英語学・英語教育学に関する専門的知識の修得に向けて、自専攻科目の中にそれぞれの分野の科目を体系的に配置します。学士課程における学修成果の集大成として卒業研究を必修とします。

3. 経験の拡充

卒業後の実社会での活動に資するため、時事問題や各種英語検定に対応した科目群のほか、語学の専門職に必要な技能を育成するための科目群を配置します。また英語圏での授業や生活を通じて、英語の実践的運用能力を向上させ、同時に幅広い国際的視野を身につけることができるように海外研修プログラムを提供し、単位を認定します。

III. 学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

1. 求める学生像

英語英文学科は、学士課程教育を受けるに必要な基礎学力と主体性を備えた人を、様々な入学試験制度により選抜し、受け入れます。具体的には、言語や文化、とりわけ英語や英語圏の文化に強い関心と探究心があり、英語習得に必要不可欠な努力を惜しまず、英語で他者と積極的に交流し、多様な価値観を持つ他者とともに問題の解決に当たる協働性を備えていることを重視します。英語英文学科が求める学生像は、次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を有する人です。

(1)知識・技能

高等学校における英語・国語の教科に関する知識・技能を有する人。すなわち、英語圏の文学や英語学・応用言語学の文献読解、さらにこれを踏まえた論述や口頭でのコミュニケーションを行うための基礎となる英語の音声・語彙・文法の知識及び「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の四技能に加え、伝達の内容に関して論理的に思考・判断・表現する際に基礎となる日本語能力を有する人。

(2)思考力・判断力・表現力

言語や文化に関わる問題に気づく観察力、その問題を解決するために文献を読解し、それをもとに考察し自らの結論を導く思考力・判断力、その結論を論理的な文章や口頭発表によって説得的に示す表現力、及びこの問題解決プロセスに主体性を持って取り組む態度を有する人。

(3)主体性等

多様な価値観を持つ他者に対する包容力を備え、主体性を持って共感的な人間関係を創造しながら、同時に自らの意図を明確に表明して相互理解を図る能力を有する人。

【入学前に学習しておくことを期待する内容】

大学での学習には幅広い分野の基礎知識が必要です。したがって入学を希望する人は、高等学校における教科・科目の教科書レベルの知識を幅広く習得していることが大切です。

特に、英語については高等学校の学習を基本として、入学までに可能な限り英語力の向上に努めてください。国語の基礎学力は、大学での授業や演習で文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また、自分の興味関心を広げるために、

様々な本を読むこともおすすめします。

英語学習に関しては、英文法を一通り学習すること、正しい発音で大きな声で音読すること、英検等各種検定試験に積極的に挑戦することです。これらのことは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」等の育成に役立ちます。

2. 入学試験制度と評価

英語英文学科は、以下の入学試験制度ごとに、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性等」を多面的・総合的に評価します。それぞれの入学試験制度における評価の比重と評価方法については、別表をご覧ください。

(1)一般選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、個別学力検査と調査書によって多面的・総合的に評価します。後期日程では、個別学力検査で合否ラインの得点帯の受験生について、調査書に記載される主体性に関する情報を評価して、個別学力検査の得点に加点したうえで合否判定します。

一般選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(2)共通テスト利用選抜

入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、大学入学共通テストの成績と調査書によって多面的・総合的に評価します。

共通テスト利用選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置いて評価・判定します。

(3)総合型選抜

志望理由書に基づいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、英語力試験に基づいて基礎となる英語能力を評価します。さらに、面接に基づいて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性等」を評価します。

総合型選抜では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書に基づく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(4)学校推薦型選抜（公募）

志望理由書に基づいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、資料小論文試験に基づいて基礎となる英語能力及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに、面接に基づいて、主体性と、口頭による思考力・判断力・表現力を評価します。また、出願書類に基づき、取得した英語資格も加味します。

学校推薦型選抜(公募)では、学力の3要素のうち、知識・技能、思考力・判断力・表現力に重点を置き、調査書に基づく知識・技能の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定し

ます。

(5)学校推薦型選抜（指定校）

志望理由書に基づいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（指定校）では、学力の3要素全てを同じ比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(6)学校推薦型選抜（附属校）

志望理由書に基づいて英語英文学科で学修することの意義を理解し、強く入学を希望していることを確認したうえで、面接に基づいて主体性、多様な価値観に対する包容力、及び相互理解を図る能力を評価します。

学校推薦型選抜（附属校）では、学力の3要素全てを同等の比重で評価し、調査書、推薦書の評価を加味して多面的・総合的に評価・判定します。

(7)帰国生選抜

帰国生選抜は、総合型選抜と同じ方式で評価・判定します。

(8)外国人留学生選抜

日本留学試験の成績によって日本語運用能力を評価します。さらに面接によって、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等、及び日本語でのコミュニケーション能力等を評価したうえで、日本留学試験の成績と面接結果を同等の比重で評価・判定します。

(9)編入学試験・学士入学試験

英語に関する個別学力検査によって、主に第3学年次に修学するために必要な知識・技能及び思考力・判断力・表現力を評価します。さらに面接によって主体性等を評価したうえで、個別学力検査結果及び面接結果を同等の比重で評価・判定します。

3. 英語英文学科の教育を通じて養う能力

言語としての英語、及び英語圏の文化の諸相に関する知識と、国際化を進める社会で活躍できる的確なコミュニケーション能力を身につけ、自らの課題とテーマを学問的に追求し、主体性を持って協創する能力を身につけます。

【英語英文学科】

(別表) 各入試制度における学力の3要素の評価比重と評価方法(◎は重点評価項目)

区分	入試制度	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体性等	
		比重	評価方法	比重	評価方法	比重	評価方法
一般 選抜	一般選抜 (前期日程)	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ) ・英語資格・検定 (共通テストプラス方式のみ) ・調査書	◎	・個別学力検査 ・共通テストの成績 (共通テストプラス方式のみ)		
	一般選抜 (後期日程)	◎	・個別学力検査 ・調査書	◎	・個別学力検査	○	・調査書
	共通テスト 利用選抜 (前期日程、後期 日程)	◎	・共通テストの成績 ・英語資格・検定 ・調査書	◎	・共通テストの成績		
総合型 選抜	総合型選抜	◎	・英語力試験 ・面接 ・調査書 ・活動報告書	◎	・英語力試験 ・面接 ・志望理由書 ・活動報告書	○	・面接 ・志望理由書 ・活動報告書
学校 推薦型 選抜	学校推薦型 選抜(公募)	◎	・小論文 ・英語資格・検定 ・推薦書 ・調査書	◎	・小論文 ・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型 選抜(指定校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書
	学校推薦型 選抜(附属校)	○	・面接 ・推薦書 ・調査書	○	・面接 ・推薦書 ・志望理由書	○	・面接 ・推薦書 ・調査書 ・志望理由書